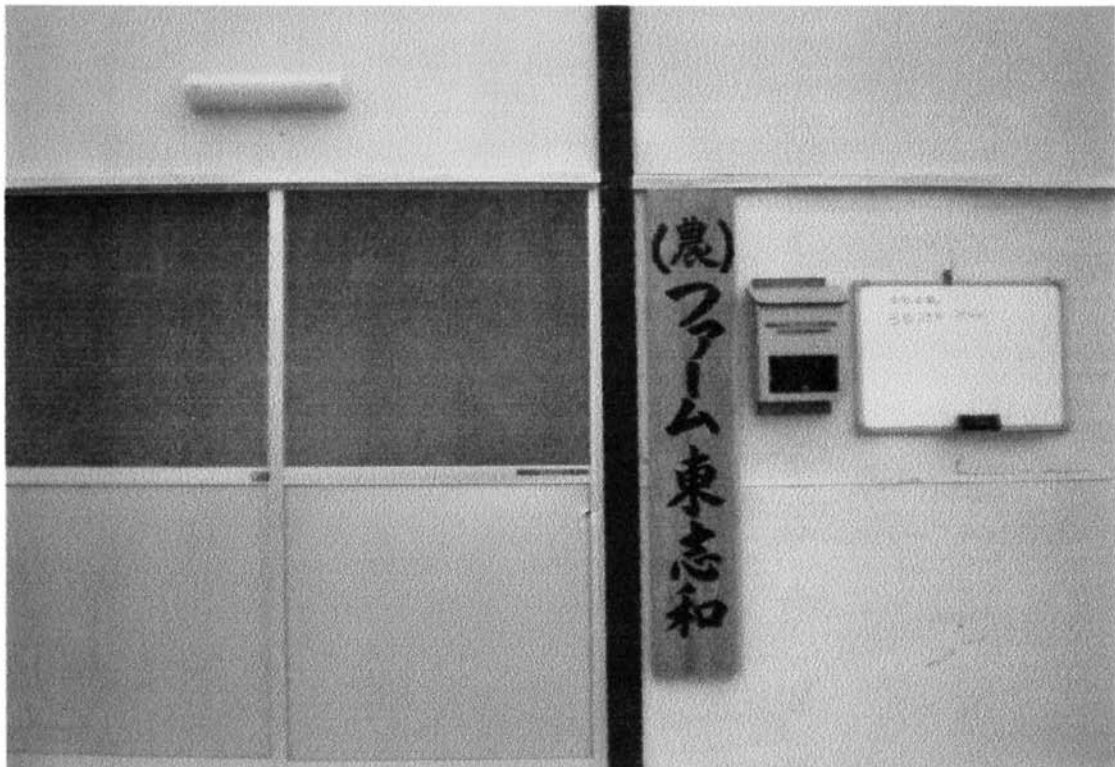


農事組合法人 ファーム 東志和

事業概要



(事務所)

豊かな自然(水・空気・大地・太陽)に感謝し

住民の相互理解・協力のもと

豊かな恵みをはぐくみ、田園を守り育てる

農事組合法人「ファーム東志和」の設立と概要

(夢と安心の得られる農業経営をめざして)

1 地域の概要

東志和地域は志和盆地の東部、中央にそびえる生城山の東側に位置する。野呂山系の清流豊かな水系の元、古くから良質の米が生み出されてきた。

平成元年から行われてきた内地区圃場整備事業(平成元年～13年度, 事業面積 63ha, 総事業費 12 億円) の第5工区にあたり, 1～4工区の内区においては既に 1997年に集落営農法人「ファーム・UCHI」が設立され 10年以上の実績を挙げる中で, 現時点において第5工区・東志和地域住民にも集落営農法人設立を望む機運が高まり, 極めて短期間に設立の運びとなった。

第5工区を中心とした本法人の経営規模は極めて小規模であり, それだけに経営には, 役員・構成員相互の理解と協力関係を密にし, 周辺地域を含めた, 温かみのある経営をめざしたい。

2 設立までの経緯

【平成21年】

- 2月28日 関係者全体集会：集落法人化をめぐる意見交換会
- 5月15日 第1回準備委員会開催 今後の進め方検討
- 5月22日 第5工区農地保有者へ参加・不参加の書類作成準備委員で戸別配布を行う
- 6月11日 参加調査書類, 第1回目回収・集計
- 6月17日 これからの地域営農の講習会へ参加
- 6月18日 集計結果, 約6haとなることを確認。改良区内及び, その周辺部も含むことを確認
- 6月25日 交付金等を県・市・農協に要請する
- 7月2日 県西部農林水産事務所員他, 県・市・グリーンセンター職員の指導・助言を受ける
- 7月11日 中間報告会を行う。
- 7月16日 最終調査について話し合う。
- 7月23日 最終調査用紙作成。戸別に書状を配布。
- 8月3日 法人設立の講習会参加(4名)
- 8月6日 申請書類の説明を受ける。

8月18日 5年間の営農計画作成
 8月19日 複式簿記講習会参加（3名）
8月20日 法人事務所の住所決定（志和東4382-5）
 8月26日 法人設立までの役割分担を決定
 9月8日 K-GISシステムの説明を受ける。
 9月14日 営農，定款について最終協議を行う。
10月1日 全体説明会を実施
10月8日 最終加入申込書配布
 10月13日 申込書回収（最終面積 10.4ha）
 10月15日 設立総会案内状・資料作成
10月24日 ファーム東志和設立総会を13時より公民館で開催
 10月29日 畦畔管理講習会，会計ソフト説明会に参加
11月5日 戸別出資金納入書配布
 11月12日 雇用契約書提出収集
 12月1日 アスパラガス植え付けのための採寸
12月3日 法人登録完了

【平成22年】

1月27日 アスパラガス栽培講習会参加
 2月3日 アスパラガス圃場見学
 2月6日 カボチャ植え付け土壌採取
 2月8日 税理士決定，打ち合わせ
 2月18日 総会開催打ち合わせ，準備
2月21日 第1回通常総会開催
 3月4日 アスパラ栽培補助金申請書提出

3 設立時の状況

(1) 法人加入の基本条件

- ・ 出資金 10a当り 20,000円（第5工区整備地）
30,000円（整備地周辺地）
- ・ 利用権設定 10年間
- ・ 利用権設定条件 地代 8,000円（年間）
水管理料 2,000円（10a当り）
畦畔管理料 7,000円（10a当り）

(2) 法人の概要

- ・法人名 農事組合法人 ファーム東志和
- ・事務所住所 東広島市志和町志和東 4382-5
- ・代表者 清水 寿 昭
- ・資本金 2, 884 千円
- ・経営形態(主な作物) 水稲・野菜(アスパラガス・カボチャ・タマネギ)
- ・設立総会年月日 平成 21 年 10 月 24 日
- ・加入組合員数 27 名(加入率 90%)
- ・集積面積 10.4 ha
- ・水張り面積 8.6 ha(畦畔率 82.7%)
- ・理事 10 名(平均年齢 58.6 歳)

(3) 設立時の資金調達状況

資金名	資金内訳	調達先	金額
出資金	資本金	組合員	2, 884 (千円)
補助金	農地確保利用支援事業	国・県	400 (千円)
補助金	認定農業者等農地集積事業	広島県	約 1, 000 (千円)
補助金	農業法人設立支援事業	東広島市	5, 600 (千円)
合計			9, 884 (千円)

4 営農体系(平成 22 年度《1 年目》～平成 26 年度《5 年目》)

(1) 営農面積・栽培品目(計画)

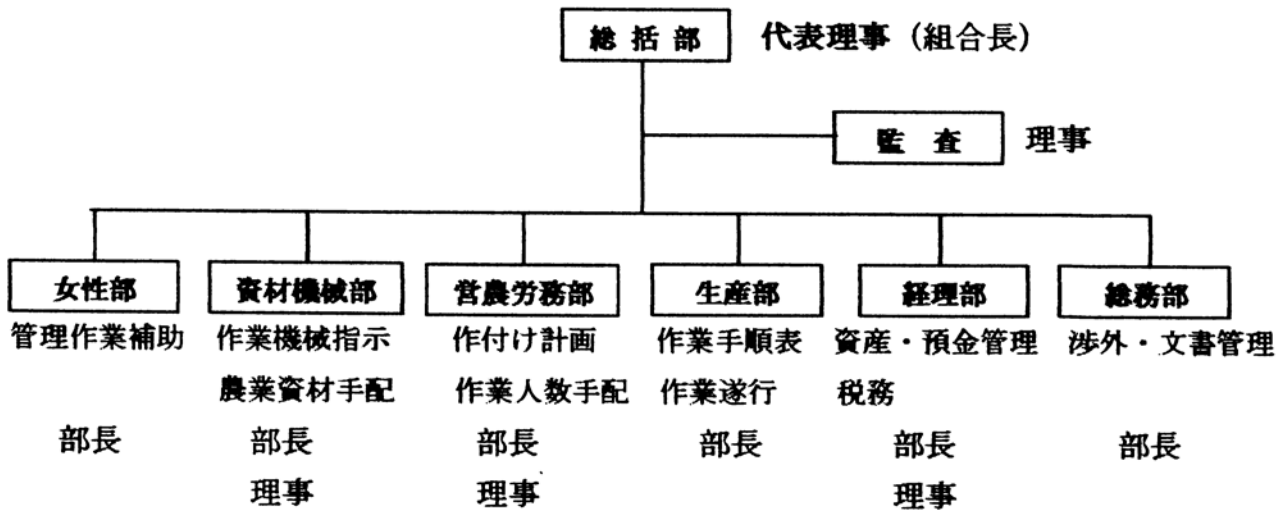
	1 年目(本年)	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目
水稲	7.2 ha	7.2 ha	8.4 ha	9.6 ha	10.8 ha
アスパラガス	0.8 ha	0.8 ha	0.8 ha	0.8 ha	0.8 ha
カボチャ	2.4 ha	2.4 ha	2.4 ha	2.4 ha	2.4 ha
そば	/	/	0.5 ha	1.1 ha	1.9 ha
集積面積	10.4ha	10.4ha	12.1ha	13.9ha	15.9ha

(2) 年次別資本装備(計画)

- ・平成 22 年度 コンバイン ER467SDMW2-S50C (1), アスパラ灌水施設 (1),
管理事務所 (1), 3, 230, 860 円(推計)
- ・平成 25 年度 トラクター (1), ハロー (1),
4, 795, 350 円(推計)

5 運営の状況

(1) 運営組織



6 現在の作業実施状況 (平成 22 年 3 月現在)

水稲作付け準備

1 年目の中心作物である。品種は当初コシヒカリを予定していたが、倒伏・収量などを勘案し、アキロマンの作付けを決定し、圃場を整備している。

アスパラガス圃場整備

転作作物の主力として考えるものがアスパラガスであり、天候不順の中であるが堆肥の購入とその散布、耕運、畝立て作業等に取り組んでいる。

カボチャ圃場整備

アスラガスに次ぐ転作作物である。現在、肥料の手配を済ませ、4 月の散布に備えている。

7 今後の課題

本法人は昨年末に発足したばかりであり、まずは計画に沿って初年度を乗り切ることが重要である。そのことで組合員の信頼を築き、その反省に立ち 2 年目以後の実践を築きたい。これからの実践ではあるが、考えられる課題としては

- (1) 経理面では、いかに出費を削減して初年度を運営していくか。
- (2) 生産面では、計画した作物を商品価値あるものとして如何に栽培していくか。
- (3) 労務管理の面では、必要な時に必要な量の労働力をいかに確保し、安全にかつ効率よく生産活動を支える体制を作り出すか。
- (4) 資材・施設の面では、経営・運営を支える資材の調達を生産・労務と連携していかに円滑に無駄なく調達できるか。

等が考えられる。

今後とも関連諸機関・行政等の助言、指導を得ながら経営・運営にあたっていきたい。